



2025年9月26日(金)
国立大学法人岡山大学
9月定例記者会見(学長発表)

岡山県 x 岡山大学

「子どもの発達とメンタルヘルス講座」を設置 ～「生き生き岡山」の実現に向けて取り組みを始動～

国立大学法人岡山大学 学長
那須 保友

学術研究院 医歯薬学域(医) 精神神経病態学 教授
高木 学

学術研究院 医歯薬学域(医) 子どもの発達とメンタルヘルス講座 教授
廣田 智也

1. 背景(1)

岡山県内の医療機関を受診する精神疾患患者数は9万人弱であり、増加しています。気分症(1.2万人)、統合失調症(1.1万人)、依存症(7万人)患者では、自殺が非常に高い確率で存在し、早期介入や重症化対策が重要となります。

ただ、岡山県での自殺率が低いです。その要因としては、岡山県、岡山市の精神科救急輪番体制の充実やいのちの電話活動、アドボケイトなど精神疾患患者の権利擁護、受診不可能な患者へのアウトリーチ事業、当事者が参加するピアサポーター事業など、他府県に先駆けた試みがあげられます。

また、岡山県が行ってきた「**難治性精神疾患地域移行促進事業(2014年10月～)**」があります。これは、長期入院の最大の原因である難治性統合失調症の唯一の治療薬であるクロザピン(全国導入率第3位)と、電気痙攣療法(ECT)の県全域の精神科病院、クリニックが連携した多施設治療ネットワークです。岡山県の大人の精神疾患発症後の治療水準は非常に高い状況にあります。

1. 背景(2)

しかし、予防医学、早期介入の点では大きな課題があります。加えて、岡山大学病院がある県中心部の岡山市と、それ以外の地域の精神科医療の格差が大きな問題となっています。精神疾患患者の初診までの待機日数は、岡山市でも1か月程度、初診予約が取れない状況があります。岡山市以外の地域では2か月以上と特に非常に長くなっています。特にこれは児童思春期患者で顕著となっています。

令和5年の岡山県の出生数は1万1575人と年々減少しています。しかし、岡山県の最新の報告(令和5年度版岡山県の母子保健)では、令和5年度の1歳6か月児、3歳児健診受診率は95%以上と非常に高い中、→1歳6か月児、3歳児健診受診者のうち約15%が発達障害の疑い、約2%が虐待ハイリスクで支援を要する子どもとされています。

健診で問題を指摘されても、子どもを専門とする精神科・小児科の専門医療機関、専門医ともに著しく不足しているため、岡山市でさえ初診まで半年から1年を要するのが現状です。

次世代の専門家の教育、子どもを取り巻く施策につながる疫学や公衆衛生領域の研究、多職種と連携する地域での活動や臨床を系統的かつ網羅的に実践できることが必要。

2. 子どもの発達とメンタルヘルス講座 (Department of Child Development and Mental Health)

1. 概要

設置部局: 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

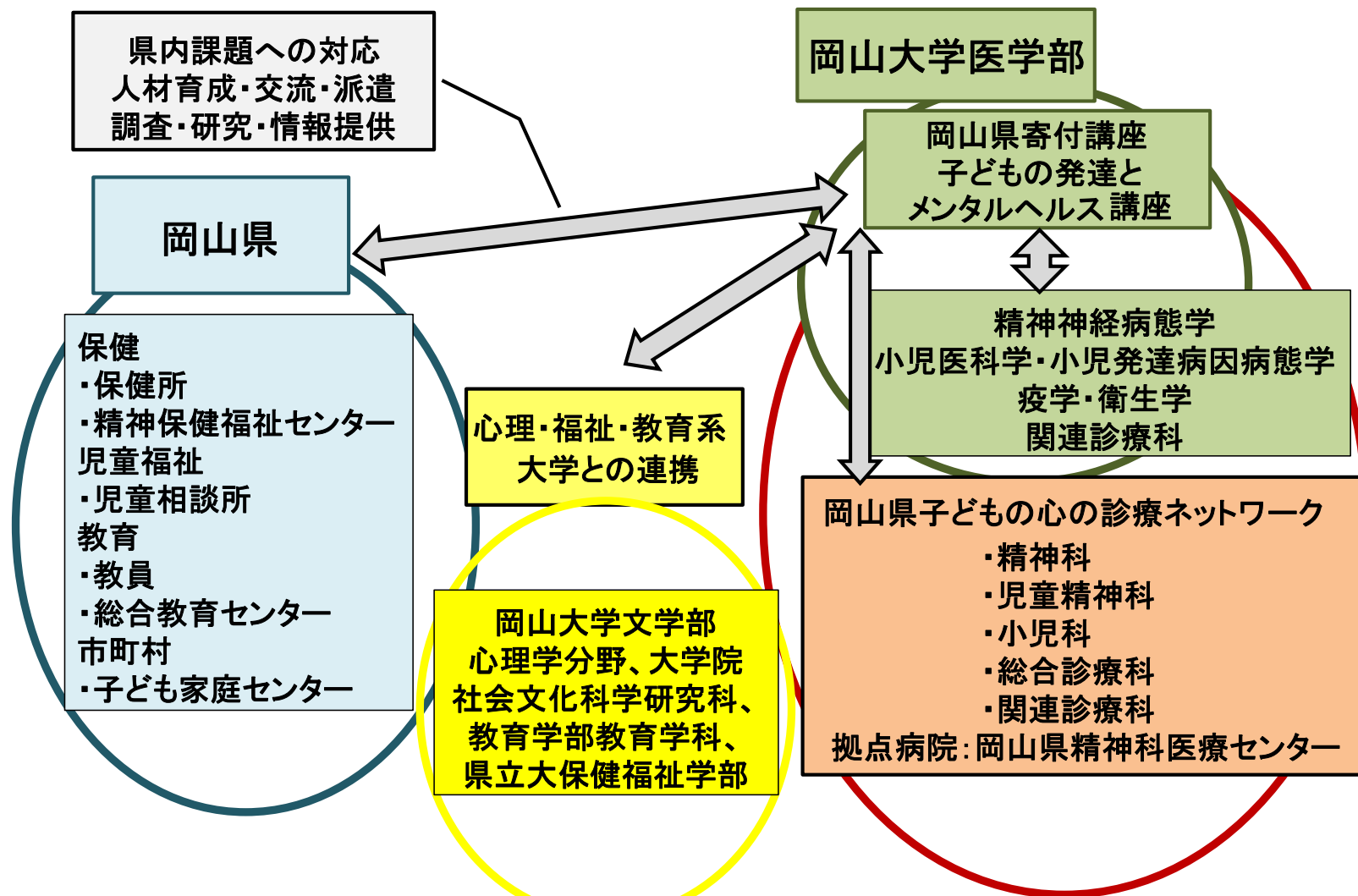
開設期間: 令和7年10月1日～令和8年3月31日 (年度途中のため、本年度は半期。来年度以降も継続)

担当教員: 廣田智也 教授、古田大地 助教

2. 目的

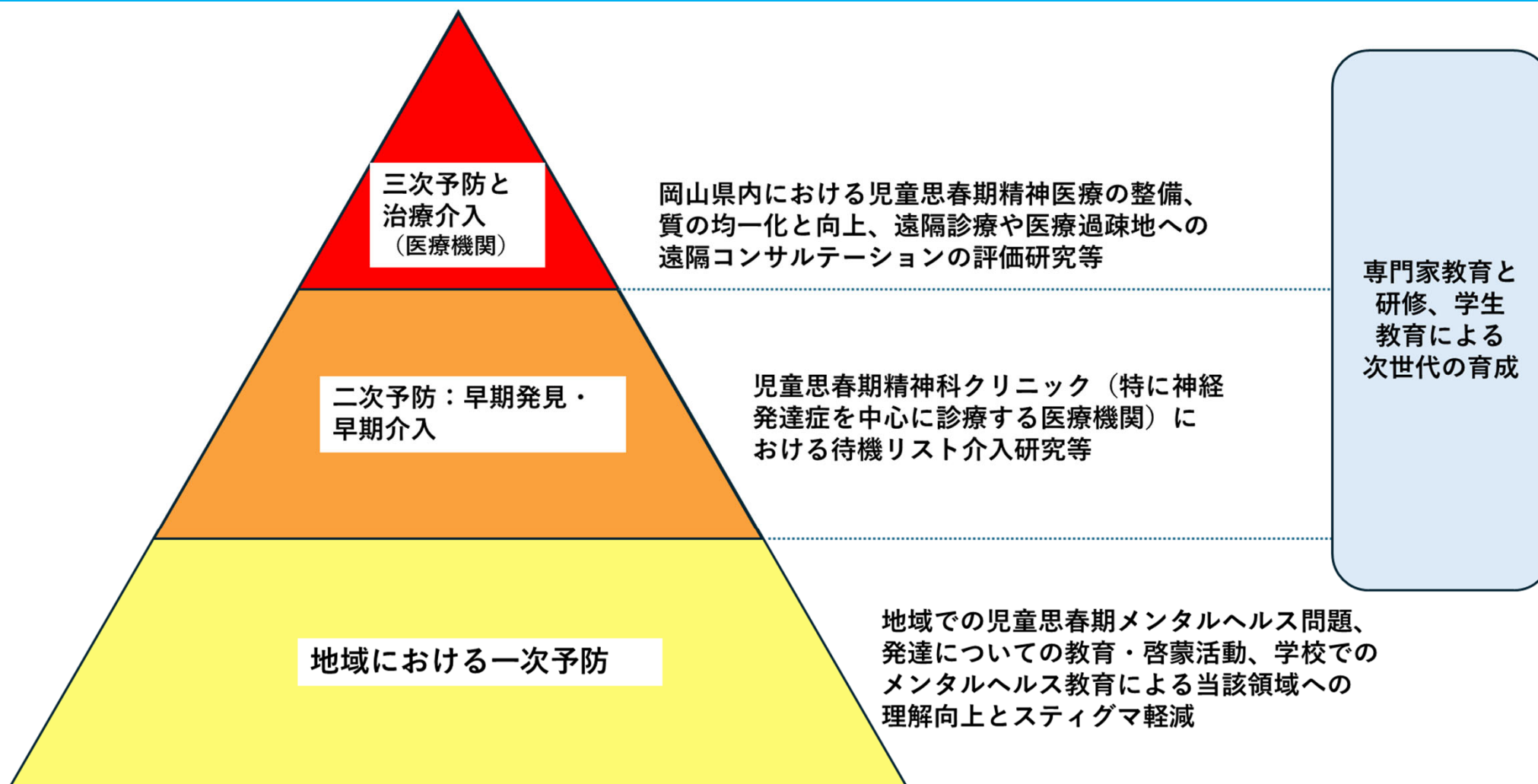
- ①子どものメンタルヘルス問題と神経発達症領域の専門医の教育・研究における次世代リーダーの育成
- ②子どものメンタルヘルス問題と神経発達症領域の診療科・職種・機関を横断した医師と専門職の人材育成とネットワーク構築
- ③人材育成とネットワーク構築を通じた子どものころに関連する多様な政策課題の解決 (医師の派遣を含む)
- ④行政機関と連携し、県レベルでの子どもの発達とメンタルヘルス関連の予防的取り組み (県・市町村での予防的教育・啓蒙活動や研修、人材交流など)
- ⑤子どものメンタルヘルスに関わる政策提言

2. 子どもの発達とメンタルヘルス講座 (Department of Child Development and Mental Health)



子どもの発達とメンタルヘルス講座と関連する講座や機関の関係図

2. 子どもの発達とメンタルヘルス講座 (Department of Child Development and Mental Health)



子どもの発達とメンタルヘルス講座の主な活動内容(教育、人材育成、臨床活動など)

2. 子どもの発達とメンタルヘルス講座 (Department of Child Development and Mental Health)

3. 期待される効果

- ①神経発達症の有無に拘わらず、いじめなど学習環境、虐待や孤立した育児など家庭環境に起因する子どものメンタルヘルス問題の出現の予防と早期からの専門的な対応を可能にする。
- ②神経発達症のある子どもが、周囲からの関りや必要な療育や医療を適切に受けることにより、二次障害の発生を免れ、社会に貢献できる大人・人材に成長できる。
- ③神経発達症のある人に関わる教育・保健・医療・福祉従事者の資質の向上と、円滑かつ的確な連携が可能となることで、従事者一人一人にも遣り甲斐や達成感が得られ、将来のこうした分野での優秀な人材の確保・育成にもつながる。



岡山県の医療・福祉・教育の先進県としての更なる発展、すべての県民の子育てと子どもの育ちが的確に応援される「生き生き岡山」の実現にむけ、地域中核・特色ある研究大学：岡山大学と、その一翼を担う岡山大学病院は共に力を尽くしたい。

3. おわりに

児童思春期精神医学の分野は、発達やメンタルヘルスを対象とし、従来の医療的関わりによる症状の重症化を防ぐ医療の役割（三次予防）に加え、地域レベルでの教育や啓蒙活動により、一般人口群の当該領域に関する知識向上やスティグマを軽減する役割（一次予防）、そして乳幼児健診や学童前の発達健診などを通じて早期発見・早期介入に関与する役割（二次予防）と多岐に渡ります。

中でも、**児童思春期のメンタルヘルスは、一次予防と二次予防の役割が国際レベルで重要視**されます。この効果は児童思春期のみならず、成人期の身体・精神的健康にも及ぶため、今後の児童思春期精神医療は、クリニックや病院での臨床の質の均一化と向上に加え、地域や学校など、子どもたちが過ごす場での診断閾値下の症状やメンタルヘルス不調に対しても取り組むことが望ましいです。

さらに、**当該領域は小児医学、成人精神医学、心理学、社会福祉学、教育学など非常に多くの領域と密接に関わっており、当該領域の専門家（専門医、他の職種を含む）は、他領域への深い関心と理解、また各専門家や非専門家と協同するコミュニケーション能力や技術、そしてチームを率いるリーダーシップが求められます**。しかしながら、従来の医学教育やトレーニングでは上述の技術や能力を学び習得する機会は稀です。この新たな挑戦を岡山県とその関係機関、そして地域中核・特色ある研究大学である岡山大学とその一翼を担う岡山大学病院が共に担い、地域のヘルスケア、ウェルビーイングの向上を目指します。どうぞご期待ください。

参考. 岡山県難治性精神疾患地域移行促進事業

岡山県 難治性精神疾患 地域移行促進事業 (平成26年10月～)

クロザピン・電気けいれん療法の均てん化
安全に導入、地元で回復！



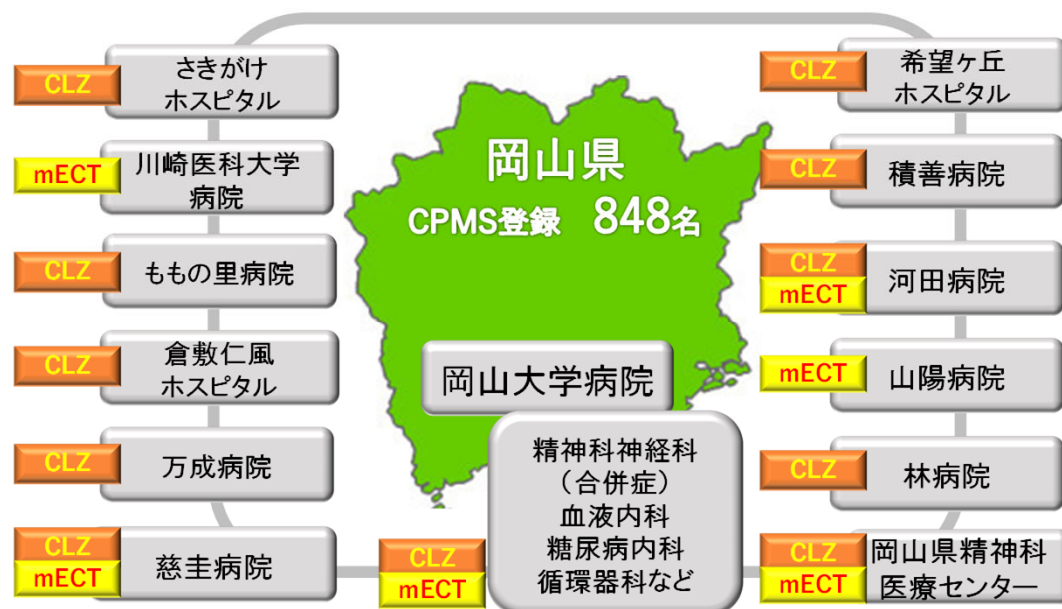
岡山県難治性精神疾患 地域連携体制整備事業(2014～2018)
岡山県難治性精神疾患 地域移行促進事業 (2014～)

目的：精神病床に入院する難治性患者の地域移行を促進するため、治療抵抗性統合失調症治療薬等の専門的治療を実施・検討するための精神科病院と他科を有する医療機関とのネットワーク等、医療連携体制を構築することを目的とする。

事業主体：岡山県
委託費：156万円（国：県=50:50）

事業内容

- ① 連携会議・研究会
- ② CLZ・ECT体制整備支援
- ③ IC資材作成・書籍購入
- ④ 施設アンケート



CLZ	CPMS登録 医療機関	11
CLZ通院	CPMS登録 通院医療機関	1
mECT	ECT施行可能 医療機関	6



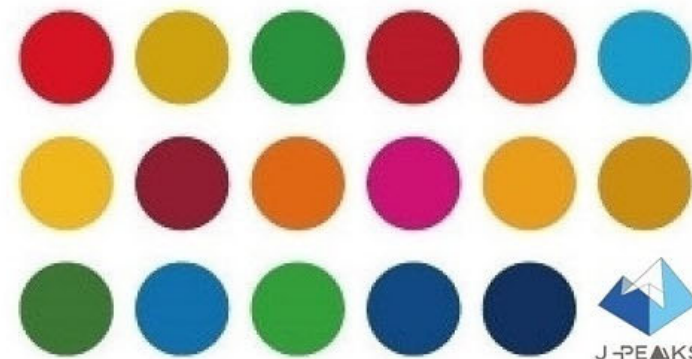
<https://www.okayama-pmc.jp/home/organization/5w64e269/86j37nxd/sktgdogp/>



国立大学法人岡山大学
第15代学長(第5代法人の長)
那須 保友

地域中核・特色ある研究大学 岡山大学が拓く今と未来

OKAYAMA
UNIVERSITY
×
SDGs



私たちは大学が地域と地球の未来を共創し、世界を変革させ、
持続可能な社会を実現させる“力”があることを信じています

【本件問い合わせ先】

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 精神神経病態学教室
〒700-8558 岡山県岡山市北区鹿田町2-5-1 岡山大学鹿田キャンパス
E-mail: seishin@cc.okayama-u.ac.jp
<https://psychiatry.ccsv.okayama-u.ac.jp/>

